

導入するEVトラックの前でジャンボキーを受け取る
小池孝幸社長(左)＝可児市大森奥洞 嫩葉舎



冷蔵・冷凍車のEVトラック

中部興産が導入

学校給食の食材を配送

バローホールディングス(HD)グループの物流会社中部興産(可児市)は19日から、電気自動車(EV)トラックを初めて導入する。二酸化炭素(CO₂)排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラル推進のため、ノウハウを蓄積し、EVのメリットを見極める狙い。17日に可児市大森奥洞の同HD人材開発センター「嫩葉舎」で導入式典を開いた。

導入するEVトラックは積載量約2・5トンのいすゞ自動車製「エルフEV」。

1台をリース契約した。いすゞ自動車製EVトラック導入は東海3県で初めて。加工した肉や青果を運ぶ冷蔵・冷凍車として使用し、可児物流センターを拠点に地元の学校給食の食材を配送する。従来のディーゼル車はエンジンを切ると積載の冷蔵・冷凍機も停止していた。今回のEVはバッテリーを使用し動力停止中でも冷やし続けることが可能。ディーゼル車と比べCO₂排出量を66%削減する効果を見込む。

式典ではいすゞ自動車中部の山田史朗社長がバローHD、中部興産の小池孝幸社長にジャンボキーを贈呈した。小池社長は「EVはこの10年で急成長しており可能性も課題もある。どう役立てられるのか、しっかりと見極め進めていきたい」とあいさつ。記者会見しEV活用例として近場の配送や災害応援などを挙げた。